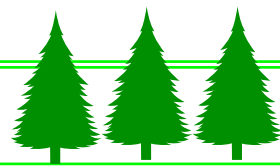


みつぎ便り



第172号 1月号 令和3年1月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所みどり公園課の花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です

新年あけまして

おめでとうございます

公園も生きていますので、もちろん年を重ねます。今年で、見次公園は誕生して六十八年です。これだけ生きたからこうだということは分かりませんが、分からないからこそ繰り返しの季節のなかにヒントがあるような気がします。

ましてや、平凡に生きている私たち人間は、生きるためにしなければならないことは、そう多くはないけれど、その少しのことさえもしないで終わる人生の何と多いことでしょう。生きた一生に何をしてみました



か、と問われた時、細やかでも私はこう生きました。といえる一生でやりたいと思っております。

今年もどんな一年が待っているのか、平均年齢がだいぶ上がってきたメンバー十四人。皆様のご協力あつての活動、よろしくお願い申し上げます。
(見次の会一同)

オオバン

先日、公園の池を見ているカモとは少し様子が違う水鳥が一羽泳いでいました。カモより少し小さく、身体は黒く、くちばしから額にかけては白く目立ちました。首を前後に動かしては、時々水面をつついていきます。これは「オオバン」と呼ばれる水鳥でクイナの仲間なのです。

オオバンとは聞きなれない名前ですが漢字では大きいという字に番偏に鳥と書きます。湖沼、湿原、水田など水辺に住み食性は雑食で主に水生植物を食べています。



池のカモは最近数はが増えていて五十羽くらいいるようです。それ以外にこのオオバンや、目が金色のキンクロハジロと呼ばれる小型で黒い水鳥も泳いでいます。

池の周りを歩いて見ましたところ、男の足で一周するのに四百五十歩、約五分を要しました。紅葉は終わりましたが木々は葉を落としています。目立つのは赤茶色に変わったメタセコイアの葉でしょうか。公園もすっかり冬支度ようです。
(重)